

《学校評価シート（高等学校）》

①

評価領域

進路指導部

②	重点目標	生徒の進路に応じた進路情報を充実させ、進路に必要な知識・技能を習得し、進路目標を達成する		P
③	現 状	毎年入学する生徒の学力に年度差がある。また近年、発達障害と思われる生徒の入学が増加する傾向にあり、個々の学力差も課題となっている。多様な生徒について多様な進路を達成するための3年間を通じた計画的な学習活動と進路指導が重要である。また、新型コロナウイルス感染症の影響で思うような進路情報の収集が難しくなっている。		
④	具体的な目標	1. 基礎学力を身につけ、あらゆる場面で応用力を育成する 2. 発達段階に応じた進路指導計画の作成 3. 教員と就職支援員が連携しながらキャリア形成を支援する。		
⑤	目標達成のための方策	①課題を工夫し、授業と連動し、学力の向上を目指す。 ②過去のデータを基に、3年間を見通した進路指導計画を作成する。また、外部人材の講座の充実を図る。 ③進路情報・面談状況を職員が互いに交換し合い、生徒個々に応じたキャリア形成を支援する。		
⑥	具体的な取組状況	1. 朝学習の時間を中心に基礎学力の向上に取り組んでいる。 2. 進路資料の内容を充実させるとともに、ハローワークなどの外部講師派遣事業や独自の依頼による講和等の実施。 3. 3者面談の他、就職支援員と就職希望者または具体的でない生徒との面談を行い、情報提供を含めた、就職指導を充実させた。		
⑦	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 多数の生徒は意欲的に取り組んでいる。 希望先の焦点化、情報収集などの目的を達成することができた。 1・2年次では進学情報の提供、3年次は進学模擬面接などの成果が発揮され出願先に関する具体的な指導に移ることが出来た。 		D
⑧	自己評価	(評価) B	(根拠) 進路の決定状況を参考すると、就職希望者は、希望生徒に進路全員が内定を得ている。進学希望者は大学入学共通テストを受験し、希望する大学の2次試験に出願し挑戦中であり、最終的に目標達成とは言い難い。	C
		評価基準 A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
⑨	学校関係者評価と意見	(評価) B	(意見) 自己評価により、関係者の評価が分かれたようだが、記載内容を見る限り好評価をいただいている。今年度は進学面で、課題が残ったため次年度に改善を目指す。	C
⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	進学面での指導内容の見直しと、就職についてもこの状況がいつまで継続するか予想がつかないため、危機意識を持たせながら、臨機応変に対応できるように、基礎学力の向上や、SPI、適性検査等へ対応できる生徒の指導計画の立案・実行が必要である。		A